

# 地域を守る

近年の生活は、隣近所との関係が希薄であるといわれています。災害が発生したとき、それを防いだり、被害を最小限に食い止めるためには、自分の家だけでなく住んでいる地域全体が守られてはじめて、自分や家族が安全になります。安心できるまちをつくるために、日ごろから地域のつながりを大切に、連帯感を深めていきましょう。

## 自主防災会の必要性



突然起こる大地震。このような大規模災害が日光市を直撃し、市内に大きな被害が発生した場合、消防や警察、自衛隊などの公的防災機関は、十分な対処ができないことが予想されます。

このようなとき、**地域住民による組織的な防災活動が大きな力を発揮します。**自主防災会は、地域の住民の方々が「**自分たちの地域は自分たちの手で守る**」という共助の精神に基づき、地域の防災活動の中心として結成されるものです。

日光市では、すべての地域で自主防災会が発足し、活動しています。

## 自主防災会の活動

自主防災会は、平常時には、地域の危険性の把握や家庭内での安全点検の推進、避難行動要支援者の把握、地域の特性にあった防災訓練の実施など、大規模災害に備える活動を行い、災害時には、人命を守り、災害の拡大を防ぐために必要な活動を行います。



## 自主防災会の活動



### ①情報の収集・伝達

災害初動期にとくに重要なのが、情報の収集・伝達です。

地域内の被害状況や火災発生状況をとりとまとめ、地域の状況をいち早く把握し、避難誘導や救助活動に繋がります。また、市に状況を報告することで、迅速な支援が可能となります。

事前に地域の調査区分を分け、担当者の選定方法を決めておくなど、迅速な情報収集が可能な体制を整えましょう。

### ②初期消火(出火防止)

地域による初期消火は、火災の延焼防止が目的です。無理はせず、消防や消防団が到着したら、その指示に従いましょう。

### ③救出・救護活動、避難活動

収集した情報をもとに、早急に対応すべき活動を協力して行います。

## 自主防災会の班構成（例）と平常時・災害時の活動

自主防災会の班構成例と、それぞれの班の平常時と災害時の主な活動は次のとおりです。

家族  
会議

風水害

地震

火災

避難  
支援

地域  
防災

応急  
救護

備え

記録

### 班名

### 平常時の活動

### 災害時の活動

#### 情報班

- 情報を住民に伝える訓練を実施し回覧やチラシ等で防災の啓発活動を行います。



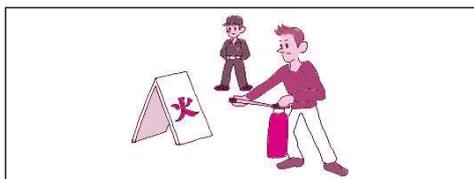
- 市や消防機関からの情報を伝え、地域の被害状況や避難状況を調査し、市へ報告します。



#### 消火班

#### 救出・救護班

- 消火器具の点検や効果的な消火技術の習得を行い、住民へ取扱方法を指導します。
- 救出用資機材の使用法、負傷者の搬送法、応急手当法の習得訓練を行い、医療施設や救護所の位置を確認しておきます。



- 周辺住民の協力を求めて初期消火を行い、火災の拡大を防ぎます。
- 資機材を用いて救出作業を行うとともに、負傷者の応急手当をし、医療施設や救護所に搬送します。



#### 避難誘導班

#### (避難行動要支援者支援班)

- 複数の避難経路・避難所を把握しておき、誘導訓練を行います。地域内の危険箇所を把握しておくことも必要です。
- 地域内の避難行動要支援者を把握します。

- 組織として避難の呼びかけ、安全な避難誘導を行います。また避難所まで高齢者等の要配慮者や住民を誘導します。



#### 避難所運営班

- 物資の備蓄・管理を行うとともにアルファ米の調理訓練や、簡易トイレや間仕切り設置などの避難所運営訓練を実施します。

- 食料、飲料水を確保するほか食料品や救援物資の受入れを行い、配給します。

